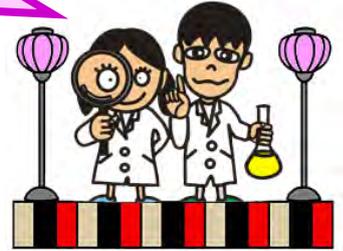
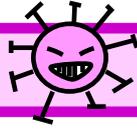


感染症に気をつけよう!

2016年【3月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症	流行状況	説明	【解説付き既刊号等】 ← クリック
インフルエンザ	大流行 やや減少	依然として警報レベルです。重症になって入院するケースの報告も、続いています。引き続き注意しましょう。【16.2号】	
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	やや流行 横ばい	例年より多い状況が継続しています。予防には手洗いが大事です。1歳から予防接種が受けられます。【ワクチンちらし】	

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 地図の色が濃いほど、患者報告数が多くなっています。まだ、市内全域で警戒が必要な流行が継続中です。
- 今までにはインフルエンザA型が流行の中心でしたが、ウイルス検査の結果等から、これからはB型が主流になると考えられます。



- 特に、子供と高齢者で入院例が多く、重症化に十分な注意が必要です。
- 予防の基本は正しい手洗いです。また、普段から栄養と睡眠をしっかり取って抵抗力を高めておきましょう。

- もし症状が出てしまったら、周囲に感染を広げないように咳エチケットを守り、早目に受診してください。
- 抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。

学校等については、「症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。

